

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：末吉にこここ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：牧島 綾子	定員（利用人数）：60名 （利用者：64名）
所在地：〒230-0012 横浜市鶴見区下末吉1-13-20	
TEL：045-580-2526	ホームページ： http://sueyoshi-nikoniko.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2004年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社にここ	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員 10名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 18名 保育補助 2名
	栄養士 3名 調理補助 1名
	事務 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 5ヶ所
	ホール 2ヶ所（1, 2階） 調理室 1ヶ所
	事務室 1室 園庭 あり

③ 理念・基本方針

保育理念

◆子ども一人一人の個性を尊重し、家庭と変わらぬ環境で過ごせるよう保育士一体となり、愛情を持って日々保育にあたる

保育方針

◆豊かな人間関係の基盤をつくる

保育目標

- ◆心身ともに健やかな子ども
- ◆基本的な生活習慣を身に付ける
- ◆自分で考えて行動できるよう基盤を培う
- ◆子どもが喜んで登園し笑顔で降園できる環境づくり

これらを目標に「家庭・保育園・地域」が協力し合って、子どもの健全な発達をサポートしていきます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【地域的環境】

当園は横浜市鶴見区の鶴見川近くの住宅街に位置しています。鶴見区は大型マンションが次々と建設され人口増加の著しい地域ですが、当園周辺は大きな菓子工場と戸建て住宅のみで、その影響は大きくありません。鶴見川に近くにJRの陸橋があり、電車の往来が眺められる川沿いのお散歩コースは、子どもたちに人気のスポットです。近隣の小さな公園では木が生い茂る斜面で子どもたちが探索をしたり、広大な芝の公

園では思いっきり体を動かしたり、公園内のランニングコースコースで冬にはマラソン大会を行ったりしています。

【自分で考え行動できる子どもを育てる】

今年度より乳児クラスは小グループ制保育を実施しています。クラス内で活動を分けたり、異年齢のクラスのグループと混合したり、園内に限らず日中や夕方のお散歩など戸外活動でも小グループ制を取り入れています。少人数では子どもの気持ちを優先した対応がしやすく、またグループで活動の時間を少しずつずらすことで、散歩からの帰園時や排泄や食事、睡眠などの切り替えが、子どもだけでなく保育者も落ち着いて出来るようになっていきます。

幼児クラスは、子どもが主体的に活動できるよう室内や園庭など遊びを選べるようにしています。また給食はホールを食堂として活用し、決められた時間の中で、自由に食事に入ることが出来ます。食事を早く済ませ遊びに戻ることも、午睡に入ることも可能です。

それにより登園時間の早い子どもが早めに食事に入ったり、気が済むまで遊び込んでから食事に入ったりなど、その日の体調や気持ちに合わせて子ども自身が決めることが出来るようにしています。

食事の盛り付けも、各々が自己申告した食べられる分だけの量を、保育者が盛り付けています。おかわりも可能です。

基本的に子ども自身のやりたい気持ちを尊重するように配慮しています。お散歩に行きたくない、体操教室に参加したくないなどの場合は、子どもの気持ちに寄り添い個別に保育者が対応するようにしています。また子どもがやりたい気持ちになれるような環境を整えることの大切さを、会議や研修などで繰り返し共有しています。

【食育活動】

職員は子どもたちと同じ給食を食べ、意見を出し合っています。献立には郷土料理や旬の食材、行事にちなんだメニューを取り入れ、子どもたちの興味関心と食への意欲を引き出しています。

食育活動も年間を通して企画し、クイズやパネルシアターなど子どもたちを楽しませながら学ばせる工夫や、魚さばきの実演などを行っています。乳児クラスには、毎月野菜ボックスの中に入れた野菜に直接触れる機会を設けています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月19日（契約日） ～ 令和5年3月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)園目標「自分で考え行動できるよう基盤を培う」ための保育に向き合う姿勢
今年度は園目標の「自分で考え行動できるよう基盤を培う」ための実践として、少人数制保育（流れる保育）について意識的に取り組んでいます。その日の子どもの様子に合わせてグループ分けし、遊び、散歩、食事、排泄など時間差をつけ、一人ひとりの生活リズム、その日の体調、興味に合わせた援助をしています。今年度はその土台作りの時期としており、保育の流れができ始めている低年齢児クラスと他クラスの担任を時に入れ替え職員同士でも刺激を合いながら取組を進めています。また、少人数制保育についての会議を設けたり中間報告会を実施するなど、改善や専門性の向上に取り組んでいます。

2)子どもの生活と遊びを豊かにするさまざまな経験

園周辺には公園のほか、鶴見川の土手、地域のランニングコースでマラソン大会ができる環境があります。戸外活動の行き帰りには近隣を行き交う人、近隣商店街の人たちと挨拶を交わすなど、子どもたちが地域の中で生活をしていることを感じられるような働きかけを行っています。また、よこはま3R夢教室で学んだことを生かし、毎年行う野菜栽培に土壌混合を取り入れています。消防訓練での消防署員とふれあったり、近隣小学校との交流を図っています。今年度は2ヶ所の小学校の1年生、5年生と交流する機会を10回以上設けています。園児の小学校訪問や反対に小学生の園訪問（幼児クラスと1年生混合グループを作り、グループごとに1年生に絵本の読み聞かせをしてもったり、園の玩具で遊ぶなどの交流）、移動動物園に招待したりなど設定を変えて交流をしています。子どもが好きな場所、さまざまな地域資源や人との交流を保育に生かし、子どもの生活と遊びが豊かになるようにしています。

3)園をまとめていく園長のリーダーシップ

園長は、10年後も必要とされる保育所を目指し、年度の始めに園の運営や管理についての考え方を全職員に説明し、年間の取組を共有しています。また、園をリードする立場として日頃から全体把握に努めています。主任と日々連携し、働きやすい環境作りに配慮しています。気づいたことがあれば随時面談でじっくりと話をすることで、心身の状態や悩みなどを把握し、改善策を常に検討しています。面談では職員一人ひとりの園での役割やその役割を自覚し、遂行してもらえるよう促しているほか、目標の振り返りや達成度を確認しており、適切な指導に取り組んでいます。

4)第三者委員の役割の周知

重要事項説明書に、園の苦情解決受付、責任者、第三者委員2名の氏名、連絡先を明記し、園内に連絡先の掲示をしています。玄関ホールにご意見箱も設置しています。しかし、今回の保護者アンケートでは、「第三者委員に相談できること」の認知度が50%と他の項目と比べて低く、保護者に充分伝わっていません。保護者の認知度が増すための工夫が期待されます。

5)毎年の事業計画の策定

これまで毎年事業報告書の作成はしていましたが、事業計画書についての策定はありませんでした。今年度途中で事業計画書を策定し、会議の中で職員に周知をしています。今後は毎年事業計画書を策定し、それに基づいた定期的な見直しや評価につなげていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

子どもの人権や子ども主体の保育について会議や園内研修などで何度も取り上げ、話し合いなどを行ってきましたが、それでも漠然とした部分も多かった「保育の質の向上」に向けての取り組み。

今年度は「流れる保育」の形を取り入れ、大幅な保育改革を行って参りました。そのタイミングでの第三者評価受審は、園にとって大きなステップになるとても良い機会だったと感じています。

「評価をされる」ことに抵抗感を持つよりも、強みを再認識できたり、発見したりできることや、弱みを掘り下げて考える機会になったり、自分たちでは気付けない弱みを見つけてもらえたりする絶好のチャンスが「第三者評価の受審」と捉え、「自分を見つめ直す機会として」、「大切な時間として」前向きに取り組んで参りました。

この機会が、子どもたちの笑顔に繋がられるよう、これからも保育に真摯に向き合
っていきたいと思っています。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり